

NISSAN GLOBAL FOUNDATION

All stakeholders' news letter

日産財団ニュース



日産財団は人材育成を通じて、豊かな未来社会の実現を目指します。

CONTENTS

- 1 - 未来のリーダー教室開催
- 2 - 理科教育賞受賞校インタビュー
Vol.2 発行
- 3 - 教育系財団交流会

未来のリーダー教室 開催

親御さんと一緒に未来の教育を考えました

一昨年度より、Society5.0（超スマート社会）を生きる次世代リーダーを育成することを目的として、未来のリーダーが必要とする能力は何か、誰がどのようにに教育したらよいのかを探る実験的ワークショップを開催しています。今回は子どもを持つ親御さん12組に参加いただき、今の教育に欠けている（かもしれない）3つのテーマを話し合いました。

Day1はアート(創造性)をテーマにアーティストの福村さん栗田さんのファシリテーションで、身近な素材でアート作品を創作し、アート思考を体験しました。既成概念を破壊する力や多様性を伸ばす教育を考える機会となりました。

Day2はイノベーションをテーマに、久村理事長がイノベーション人材の育成について講演しました。質疑を通じてイノベーターの能力・資質について理解が深まり、「メンター」の役割という新しい視点が提示されました。

Day3は未来の教育をテーマに、早稲田大学池上教授から今の産官学の動向を俯瞰する情報が提供された後、「そもそも論点は何か？」という漠然とした問いかけがなされました。参加者は、戸惑いながらも各自各様の論議フレームを考えました。この思考体験を通じて、「内発的に課題設定できる能力」が重要という気づきが得られました。



理科教育賞受賞校インタビュー vol.2 発行

10校の貴重なノウハウが詰まっています

日産財団の理科教育助成事業では、助成期間を終えた35校の中から特に優れた成果を上げた学校に理科教育賞を差し上げ、贈呈式で成果発表をしていただいています。成果発表では多くの貴重な知見をコンパクトにまとめていただき、分かり易く説明いただいておりますが、実はその発表だけでは伝えきれない現場の創意工夫や先生方の情熱が多く残っていることに気づきました。

そこで受賞校を訪問して直接インタビューして、伝えきれなかった先生方の生の声を届けることにしました。インタビュー記事はホームページに順次掲載していますが、このたびシリーズ第11回から20回までの10本をVol.2としてまとめました。

助成校や教育委員会など関係の皆様にご配布しましたが、ご希望があれば差し上げますので、ぜひご連絡ください。

harata@nissan-zaidan.or.jp



日頃 思い悩むこと

金がない 知名度がない
知恵がない 人が集まらない
人手が足りない 頑張っても所詮小粒

そうだ、アライアンスだ！

金がない 知名度がない
→共同で金策 →紹介もらう
→共同で購入 →連名で活動
→コストシェア
知恵がない 人が集まらない
→教わる →広報相乗り
→ベンチマーキング →人脈ネットワーク共有
→マニュアルなど共有
人手が足りない 頑張っても所詮小粒
→お手伝い →事業連携
→人材交流／出向 →大型共同企画

教育系財団交流会 開催

アライアンスを呼びかけました

日本では約3,000もの助成型財団が個人や団体の活動に資金提供や奨学金給付、表彰や賞金贈呈を行っています。各財団事業はそれぞれ独自ではありますが、類似目的の財団の活動には多くの共通点があります。そこで一昨年より、助成財団センターの肝いりで、日産財団、パナソニック教育財団、博報堂教育財団が中心となって13財団が参加する「教育系財団交流会」を立ち上げました。

7月13日には第3回の交流会を行い、コロナ禍における財団運営やWebツールの活用ノウハウなどの情報交換を行いました。日産財団からは、交流会の枠組みを情報交換の場から一歩踏み込んで、教育系財団共通の課題を解決するアライアンス的な活動を提案しました。手始めの活動例として、メルマガなど各財団メディアへの相乗り広報事例を紹介しました。

ゆくゆくは、個々財団ではカバーできない大きな課題を、アライアンスで解決するような活動に発展できればと妄想を拡げています。

